

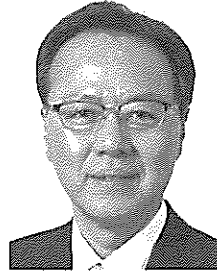
全高書研会報

全日本高等学校書道教育研究会

事務局
千葉県立木更津東高等学校
〒292-0056
千葉県立木更津市木更津225
山口 英徳
TEL0438-23-0538
FAX0438-22-0561

出版部
三重県立尾鷲高等学校
〒519-3659
三重県尾鷲市古戸野町3-12
岸本 一哉
TEL 0597-22-2115
FAX 0597-23-2788

印刷
光出版印刷株式会社
〒515-0044
三重県松阪市久保町1885-1
TEL 0598-29-1234
FAX 0598-29-0265



念ずれば花ひらく

全日本高等学校書道教育研究会 会長 荒井 利之
(川崎市立川崎総合科学高等学校校長)

初秋の候、全国で書道教育を推進されていく多くの先生、そして本研究会にご支援ご協力を賜ります多くの皆様におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。日頃より本研究会の活動にご理解ご協力を賜り、心よりお礼を申し上げます。併せまして、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官の豊口和士様におかれましては、日頃より本研究会の発展のためご高配を賜り心より感謝を申し上げます。

た強い思い、そして目標に向かって突き進む団結力に事務局の私たちこそ力を頂き、共に取り組ませて頂いていることに深く感謝を申し上げます。

変大きいものと言えるでしょう。そこでこの愛媛大会は、テーマに「文字文化と豊かに関わる書道教育」書の見方・考え方を通した深い学び」を掲げられました。書の芸術文化を言語文化、文字文化との関わりを通して広く捉え、長期的な展望をもつていかに取り組んでいけるか、という大きな命題がこの中に含まれています。そして書の見方・考え方を働かせることで生活や社会とどのように関わり、書がいかなる芸術なのかを探求していくことで深い学びにつなげていくという具体的な目標が副題に掲げられています。

愛媛県松山市は文学と深い関わりがある地域ですが、その中に詩人坂村真民氏は県民だけでなく今や全国の人々の心に生きる力を与えてくださる言葉を残しています。その中に「念ずれば花ひらく」という有名な一説があります。愛媛県の先生方、そして生徒の皆さんはこのような文化の中で育まれ、今大会もそのようなスピリッツが集結した大会であると思わずにはいられません。大会に携わる皆様に改めて感謝を申し上げます。そして、この大会に参加される全国の私たちは、発表内容の根底にどんな状況でも目標を見失わずやり遂げようとする心意気を感じていただければありがたく存じます。

さて、今年の十月二十日(水)、第四十六回全日本高等学校書道教育研究会愛媛大会がオンラインにて開催させていただきます。開催に当たり準備に携われてこられた愛媛県の皆様には、厳しい社会情勢の中、運営をはじめ研究授業、研究発表等にご尽力して頂いていることに心よりお礼を申し上げます。愛媛県の先生方の開催に向け

今年度のスタートする高等学校学習指導要領の趣旨のもと、三観点評価、ICT活用 of 充実、そして新しい指導と評価の方法を取り入れ、全国の皆様への指針となるスタイルをお示しすることを目標に取り組んでいるところです。国立教育政策研究所から示された「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する資料が提示されたのが八月末でした。それを受けて発表者の先生は、修正と推敲を繰り返し、これからの書道教育の在り方を示すため、豊口調査官の指導を賜りながら、この大会に臨むための準備に取り組まれています。このよ

うな点からもこの大会の開催意義は大

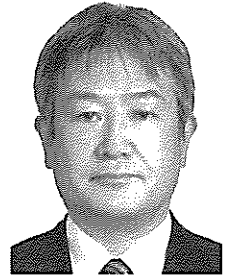
を今後は三観点でどのように評価していくのかを求められている中、本研究会初のオンライン形式により、皆さんと共有し共に高めていきたいという強い思いから今回の大会は開催されま

す。

す。

す。

す。



第四十六回全日本高等学校書道教育研究会愛媛大会へのご案内

第四十六回全日本高等学校書道教育研究会 愛媛大会会長

山下 尚位

(愛媛県立宇和高等学校長)

第四十六回全日本高等学校書道教育研究会愛媛大会の開催が迫って参りました。昨年来、世界を覆いつくしているコロナ禍の中で、従来の形で大会を行うことが適わなくなっています。この状況下にあつて、できることは何かを探りながら準備を進めています。

まず、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、オンライン開催に踏み切らせていただきました。日程も短縮いたしました。全国の書道教育に携わる皆様様に松山にお越しいただき、道後温泉で身も心もほぐしながら意見交換をしたいと考えておりましたので残念でなりません。

しかし、地球規模での災禍に出遭いながらも、書道教育の進化を止めることはできないと考えています。

また、ICT教育の実践が重要な教育課題となっている現在において、書道教育の中でどのような活用方法があるかを

示す機会であると捉えています。

奇しくも、愛媛県では、今年度始め、全県立学校の生徒に一人一台の情報端末機器が配備されたところです。すでに整備されていたWi-Fi環境と併せ、これらの運用は始まったばかりですが、試行錯誤する中で見えてきた課題もあります。新学習指導要領の実施に向けたICTの活用について研究が不足していることや、活用に関する教員の経験不足などです。今回の愛媛大会は、これらの課題を踏まえ、書道教育の未来につながる挑戦となるよう準備してまいりました。

オンライン開催自体が大きな試みです。愛媛大会で試みたことが精査され、今後の大会運営の発展につながることを期待しています。

本大会のテーマは「『文字文化と豊かに関わる書道教育』の書の見方・考え方を通した深い学び」としました。本県開催

にあたり、書道教育の原点回帰を念頭に研究テーマを設定しました。

豊かな想像力をもって感性や情緒を育むことを目指す上で、そのフィールドとなるのは「文字文化」です。多様な個性を認め合い、理解し合うためにもアプローチの仕方は豊かであればならないと考えています。

変化が激しく、予測困難なこれからの社会を生き抜く力を身に付けることは、様々な場面で指摘されているところです。具体的には「自らの力によって、課題を見つけ・学び・考え・判断して行動する学習サイクルの実践」が重要になります。書の見方・考え方を通じて、それらの力を形成することをねらっています。

今回の授業研究では、本県の二名が授業を公開させていただきました。その模様はLIVE中継をいたします。研究発表では本県より二名の発表を計

画しています。コロナ禍にあつて、WEB会議等を併用しながら研究会を重ね準備してきました。ご参加の皆様は忌憚なきご指摘をいただき、研究協議が充実したものであることを期待しています。

計画していたことを縮小していく中で、「安心・安全」の保障を第一義としました。削ぎ落した企画を思うと寂しい限りですが、実施するものに関しては研究大会の根幹であると自負しています。

松山城、道後温泉等を散策いただき、瀬戸内の海の幸に舌鼓を打っていただくようご案内したかったところですが、このような状況下ですので差し控えます。コロナ禍が収束して、安心して往来ができるようになりましたら、是非お越しください。今大会が、愛媛と皆様の橋渡し役になることを心より願っています。

公的資格を取ろう！

文部科学省後援

硬筆・毛筆書写技能検定

●試験日

- ◎令和4年度第1回 6月19日(日)
- ◎令和4年度第2回 11月13日(日)
- ◎令和4年度第3回 5年1月29日(日)

●試験地

- ◎ホームページ・全国有名特約書店でも受付。

●受験料

◎大学・短大の入試で優遇、高校の増加単位に認められ、資格取得のため、履歴書に書け、就職、進学に役立つ。

◎受験者必読書刊行…申込みは検定協会へ

硬筆書写技能検定：三級のドリル (定価 650円・別途送料)

硬筆書写技能検定：二級のドリル (定価 850円・別途送料)

◎願書請求方法

協会にご請求ください。(無料)

	1級	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級	6級
硬筆	6,500円	5,000円	3,500円	3,000円	2,500円	1,500円	1,200円	900円
毛筆	7,000円	5,500円	4,000円	3,400円	3,100円	1,700円	1,400円	1,000円

一般財団法人

日本書写技能検定協会

〒170-0005

東京都豊島区南大塚3-41-3

TEL03(3988)3581(代)

FAX03(3988)3528

http://www.nihon-shosha.or.jp



愛媛大会開催に向けて

第四十六回全日本高等学校書道教育研究会 愛媛大会運営委員長

宇都宮 澄美

(愛媛県立東温高等学校)

第四十六回全日本高等学校書道教育研究会の全国大会が、本年初めてこの愛媛県において開催されます。三年前より運営組織を立ち上げ、研究部

り、不安もありますが、無事に成功を取められるよう尽力いたします。

てより効果的な指導を考えるという基本に立ち返ることを念頭に研究を進めてまいりました。

加していただけますし、これまで以上に本大会の本質を問われているものと感じております。授業研究では、授業内容に至るまでの指導経過を撮

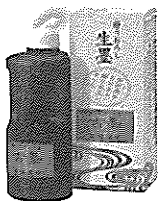
進めてまいりました。皆様には、是非本県にお越しいただき、書道教育についての議論を深めることは勿論、風光明媚な本県の名所や名物を御堪能いただくとともに、当地の文化に直に触れていただき

本大会のテーマは、「文字文化と豊かに関わる書道教育」の書の見方・考え方を通した深い学び」としました。今回の学習指導要領においては、「何ができるようになるのか」という観点から指導内容の見直しがなされています。価値観が多様化し、社会的な変化が加速していく時代を生き抜くために必要な力とともに、自分たちだけではなく、他者の思いを受け入れた中で、人として思いを伝え、より多くの人が納得できる「納得解」を導き出す力を育成することが求められています。指導内容の変化というよりも、私達教員の意識の変革を求められたものだと感じ、「何のために」「何を」「どのように教えるのか」「そのために何が必要か」をもう一度見直し、その結果を検証することで、生徒にとつ

今回の改訂において、小・中学校においては文字の由来や文字文化に対する理解を深めることについて、また、高等学校においては文字や書の効用を生活や社会に生かすことや、多様な文字文化に対する理解を深めることが述べられています。活字が氾濫する現代社会の中で、書の伝統と文化を継承するには、芸術的な書の美しさと多様性を理解することが求められます。私達は今ままでただ漠然とした感覚で捉えてきたこれらを、確かな根拠をもつて生徒たちに伝えていくべきだと考え、このテーマを設定しました。

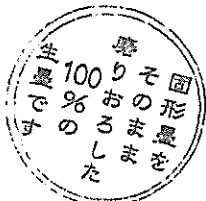
は発表資料等を事前配信いたしますので、当日までに御一読ください。また、併催展「愛媛ゆかりの俳人・文人の書画展」もWEB公開いたします。是非ともこれまで以上に多くの方々に御参加いただき、忌憚のない御意見や御提言を頂戴し、今後の授業実践に生かしたいと存じます。皆様の御参加を心よりお待ちしております。

膠系の液体墨に使用されている「塩化カルシウム」は、固形墨をそのまま磨りおろしている「生墨」には、一切含まれておりません。



CB11-25
磨りおろし生墨 古墨
普通濃度/250g
¥3,000 (本体価格)

CB7-25 (濃墨)
磨りおろし生墨 古墨
濃墨/250g
¥6,000 (本体価格)



Kuretake 株式会社興竹

〒630-8670 奈良市南京雑町7-576
TEL: 0742-50-2050 FAX: 0742-50-2070

墨づくり一筋、創業1805年。



〒630-8043 奈良市六条1丁目5番35号
TEL: 0742-52-0310 FAX: 0742-45-6880
奈良本社・工場/東京店/福岡(営)

墨の情報満載！
公式ホームページ



奈良本社の隣には、墨の歴史と技を体感できる「墨の資料館」と試墨できる「永流庵」もございます

授業研究

A書に関する見方・考え方を深める指導方法の研究

「書道I」書的美を求めて～自ら学ぶ古典学習のあり方～

愛媛県立松山東高等学校
教諭 阿部 秀信



この度、全高書研愛媛大会にて研究授業をいたします。

本校は灌校を前身に、正岡子規が学び夏目漱石が教えた旧制松山中学校を経て百四十年以上の歴史を持ちます。「自律・協同・創造」の校訓の下、一学年普通科九クラス、全校生徒千人余りが伝統を受け継ぎ、グローバル社会で活躍できる人材を目指して学んでいます。平

成二十六年年度から五年間文部科学省の「スーパーグローバルハイスクール事業」に指定され、平成三十一年度からは同「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローバル型)」に指定されました。その中で海外フィールドワークや教科の授業を英語で行うCLIL、課題研究など様々な取組を行っており、多くの生徒が国公立大学へ進学しています。

芸術科は音楽・美術・書道から一年次に芸術Iが二単位開講され、三年次に文系の中で進路に必要な生徒に対し芸術探求三単位、芸術表現二単位が開講されています。書道Iは単独クラスによる開講で7講座。それぞれ十四～二十三名の生徒が受講し

ています。

生徒が今後変化の激しさを増す社会に出ていくことを考えると、学校教育における芸術教育の価値は高まっているかざるを得ません。それは今回の学習指導要領の改訂にも明らかのように、社会から必要とされる人間像が、これまでの単なる情報処理能力の高さから、問題点を発見し、多くの人間と価値観を擦り合わせながら解決方法を模索していく能力を有するものへと変化しているからです。教科の学びを通してこれらの力を身に付けるといふ点では、芸術科には大きなアドバンテージがあります。

過去の経験から、最も生徒がアクティブになり主体的に学びが行われるのは、教えられる側から教える側に立った時だと言えます。自らテーマを決め、人に伝えられるよう編集する過程で、自ら学び直し、深い学びに至ることができはざだと考え、それが「書の見方・考え方を働かせる」ことにつながると考

えました。

今回の授業研究では、書道I漢字の書を題材に、授業の目標を、「書道の魅力について生徒が生徒自身の言葉で語れるようになること」に定めました。既習古典の中から各自で好きな古典を選び、その魅力についてプレゼンテーションを行います。同じ古典やテーマを選んだ生徒でグループを作成し、それぞれのテーマに沿って、解説する魅力や内容、それに適した手法を協同で考えていきま

B書の魅力地域に発信する 学習活動「書道I」学校設定科目「松山学」(商業)との連携を通して

愛媛県立松山商業高等学校
教諭 加納 清一



す。生徒各自がそれぞれの能力を生かしながら、書の魅力について語り合うことで、書への造詣を深めると共に、これからの社会を生き抜くために必要な能力を身に付けてほしいと願っています。

今回はオンラインでの開催となりましたが、全国の多くの先生方の御指導、御助言をいただき、今後の指導に生かしていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いたします。

この度、全高書研愛媛大会において、研究授業をさせていただきます。ただ今になりました。

本校は、「流通経済科」「情報ビジネス科」「地域ビジネス科」「商業科」の四科から成り立っており、今年度創立一二〇周年を迎える県内屈指の伝統校です。平成二十九年度に新設された「地域ビジネス科」は、令和元年度に

初めての卒業生を出し、今年度五期生を迎えています。年々、その教育活動は認知されるところに、地域の方から信頼され、評価を得ています。今年度も重点努力目標である「地域社会に根ざした商業教育の推進」に取り組み、地域に活力をもたらす人材の育成に力を入れています。

芸術科の授業においては、音楽・書道から一科目を選択し、第一学年で「音楽Ⅰ」「書道Ⅰ」を二単位必修で行っています。

今回の研究授業では、書道Ⅰの「漢字仮名交じりの書」の単元で「地域ビジネス科」の学校設定科目である「松山学」と連携をして実践しました。「松山学」では、地域創生や観光などに関する有識者の外部講師による講演、愛媛大学・松山大学と共同で地域活性化につながる活動を行っています。来年度から実施される新学習指導要領では、社会に開かれた教育課程の実現や地域社会との連携・協力が今まで以上に求められます。書道の授業で何がで

きるかを考えた結果、地元企業と連携し、松山から、書の魅力を発信し、筆文字の文化を醸成したいと考えました。

松山市の道後にある「伊織道後湯之町店」と「大和屋本店」と協働して、実際に販売する商品の横に置くキャッチーなPOP広告を墨書したり、旅館に書を飾ったりする実践です。まず、代表の生徒数名が、実際の商店や旅館に行き、商品や旅館についての説明、接客などについて聞き取りを行います。その様子を撮影し、資料とともに学校に持ち帰り「ことば」を班で協力して紡ぎ出します。次に、草稿は、今年度愛媛県において導入された一人一台タブレットパソコンを用い、パワーポイントで作成し、草稿を用いて、作品を制作し、第一段階の作品を商店や旅館に持って行き、作品のねらいを説明しながら、意見をいただきます。再度草稿や作品を制作します。クライアントの作品に対する意見も撮影し、生徒に授業で見せるの

で、クライアントの熱意が伝わり、意欲的に学習に取り組み生徒が多くいます。この作品を協働して、ブラッシュアップして行く過程が今回の実践的な学びになります。

愛媛大会は、新型コロナウイルス感染症対策のため、オンライン開催となったため、授業の事前動画をアップする予定になっています。代表

生徒が聞き取りをしている様子などもご覧になれますので、企業との協働学習が伝われば幸いです。

全国の先生方に、直接お会いすることができず、残念な気持ちではありますが、ご指導ご助言をいただき、今後の授業改善に生かしていきたいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。

構築することで、技術の習得から文字文化への理解へとつながれないかをコンセプトに研究を進めてきたものです。

本研究では、特に『連綿の視点で「仮名の書」を捉えることにより「仮名の書」の特質およびそれらを構成する諸要素への特性への理解が深まり、それにより「仮名の書」の技術も深められる』という新学習指導要領解説の変更点を踏まえ、「連綿」の強化に焦点を当てました。仮名特有の「スー・トン・スー」のリズムの習得に加え、古筆を小集団に分類し、文字分析を行うことで、行の流れや字形・連綿への理解を深めるための学習法の構築を目指し、教材の精選を図りました。加えて、学習内容の理解の深化と主体的な活動を促進させるため、視覚的なアプローチや作品の相互鑑賞を効果的に取り入れられるよう、タブレット端末を活用した授業実践にも取り組みました。私自身、タブレットの普及により、画像の拡大・縮小が高画質で容易に鑑賞できるようになり、古

分科会

A文字文化への理解を深める学習方法の研究
古筆の持つ空間・リズムの習得につなげる段階的指導の実践

愛媛県立松山中央高等学校

教諭 正岡 京子



この度、全高書研愛媛大会
研究発表テーマ「文字文化へ

の理解を深める学習方法の研究」に基づき、新学習指導要領の改訂を踏まえ、書道Ⅰ「仮名の書」での授業実践を発表させていただきます。

今回の研究発表は昨年度まで十二年間勤務しております愛媛県立今治北高等学校での実践となります。古筆の持つ空間や言葉のリズムに着目し、段階的な仮名の運筆法を

筆の線質の豊かさに驚かされ、古筆の見方が大きく変わりました。その体験を生徒たちにも

も体感できるように、仮名文字を拡大することで、筆の律動性を生かし書かれてあるこ

とを感じてもらえるよう、「口イロノート」を活用した授業実践としました。古筆の拡大鑑賞を行い、文字の特徴を分

析↓揮毫↓撮影↓文字分析↓動画撮影(リズムやフォーム確認) ↓回答共有(振り返り)

とといった一連の流れを作り、「インプット↓アウトプット↓インプット」を繰り返して

いくことで主体的で深い学習につなげられるように、授業を構成しています。

文字文化は、中国・日本の歴史的背景や思想、自然美等と密接に関わり合い、様々な

日本の伝統文化と相互に影響し合いながら培われてきたもの

です。昨今求められているグローバル化に対応する力を

養うためには、まず自国の文化を知り、他者に伝える力が

不可欠であり、日本の子供たちに必要な学びであると感じます。文字を素材として学ぶ

「書道」という科目を通じて、何を教え、何を伝えればよい

か、悩みは尽きません。新型コロナウイルスの感染

症拡大により、教育の現場の有様も変わってきていま

す。全高書研愛媛大会も、参加者の皆様に来県していただ

き、生徒作品等の掲示資料等も含めて全国の先生方のご指

導、ご助言をいただきました、準備を進めてまいりましたの

で、とても残念に思っております。その反面、オンライン

という形で、愛媛大会がどのような状況下であれ開催でき

ますことは、何よりの喜びです。

もありません。例年よりも限られた時間での発表、研究協議

の場とはなりますが、この機会を大切に、今後の教育実践

の足がかりとしたいと考えております。初のオンライン大会

というところで、参加していただく先生方に、分かりやす

く内容を伝えることができるか不安な面もありますが、運

営面でもZoom操作の研鑽を行い、スムーズな大会運

営となるよう努めております。先生方のご参加をお待ちして

います。よろしくお願ひいたします。

この度、全高書研愛媛大会の分科会Aで「書に関する

見方・考え方を深める指導方法の研究」というテーマ

のもと、「毛筆以外の用具・用材を扱った授業実践」

と題して研究発表をさせていただきます。

このテーマに取り組んだ

のは、現行の学習指導要領において毛筆による平面作

品だけでなく、篆刻や刻字などの立体的な作品を扱う

ことへの配慮が求められるようになったからです。篆刻

や刻字を専門としていない私にとって、これをいかに

指導していくかが課題となりました。

文字の歴史を繙くと甲骨文にも篆刻の例が見られま

すし、孔穎達碑跋にもその跡が見られます。また、真跡

が存在しない『蘭亭序』はさまざまな拓本によって後

世に伝えられていくことになりました。そこで、刻字の

取り組みの一つとしてベニヤ板に教科書掲載の『神龍

半印本蘭亭序』を刻し、拓本を採ることを考えました。一画一画切り出しで彫って

毛筆では臨書をするにもかかわらず、教科書には印人

たちの篆刻作品は掲載されていませんし、篆刻を勧め

る記述もありません。しかし、多くの印人たちは、篆刻

による修練を積んでいきます。そこで、生徒たちに先

ず篆刻に取り組ませること

で、目を鍛え、どのような印が美しいのかということ

や刻し方を理解させ、自用印の制作につなげていきま

した。自用印の制作では篆刻で学んだことが活かされ、

自ら考え、目標をもって制作ができたように思います。

この取り組みを始めた前任校の香川県立高松南高等

学校は、普通科、環境科学科、生活デザイン科、看護科、福祉科の五学科がある総合制高校です。部活動が盛んで、生徒たちの笑顔と活力あふれる学校です。また、現任校は、明治二十六年開校の伝統校で、いづれ

A文字文化への理解を深める学習方法の研究 毛筆以外の用具・用材を扱った事業実践 〜刻字と篆刻〜

香川県立高松高等学校

教諭 飯尾 美保



この度、全高書研愛媛大会の分科会Aで「書に関する見方・考え方を深める指導方法の研究」というテーマのもと、「毛筆以外の用具・用材を扱った授業実践」

と題して研究発表をさせていただきます。このテーマに取り組んだ

のは、現行の学習指導要領において毛筆による平面作品だけでなく、篆刻や刻字などの立体的な作品を扱うことへの配慮が求められるようになったからです。篆刻や刻字を専門としていない私にとって、これをいかに指導していくかが課題となりました。

一人ひとりが高い志を掲げ、自ら学ぶ学校を築き上げています。それぞれ特色の異なる学校ですが、どちらの学校でも『蘭亭序』の刻字と、篆刻から創作へという過程を踏んだ篆刻の授業を行いました。両校ともに生徒が夢中になって取り組む姿が見られ、汎用性のある学習方法だと思われま。刻されることで文字文化が伝承されていったこと、また、篆刻家たちも篆刻に励んだこ

とを知り、その上で刻字や篆刻を行うことは、生徒の興味・関心を惹き、テーマでもある文字文化への理解を深めることにつながったのではないかと思います。最後に、今回貴重な発表の機会をいただきましたことに感謝いたしますとともに、これを機に多くの先生方からご助言をいただき、今後の指導に活かして行きたいと存じます。何卒よろしくお願いたします。

系のコースを合わせた四つのコースに分かれて学習を行っていきます。芸術科の授業は、一年生で「音楽Ⅰ・美術Ⅰ・書道Ⅰ」(二単位・必修)・二年生(文系)で「音楽Ⅱ・美術Ⅱ・書道Ⅱ」(二単位)を選択することができ、三年生でも芸術系進学対象者が「芸術Ⅲ」(四単位)を選択することができます。

と自由律」と「書の書きぶり」の両面から分析・鑑賞して理解を深め、最後に臨書するという授業を実践しました。この体験により、生活や社会において書が果たす役割や効用、書の美の意味や価値などを考え、興味をもって多彩な文字や書と豊かに関わる態度を養いたいと考えました。

感想に見られました。地域の教材の活用は、書や文化に興味をもって関わっていきつかけとして効果的であることを改めて感じる事ができました。限られた時間の中で「何のために」「何を使用して」「何を教えるか(伝えるか)」そのために「何が必要か」をもう一度見直し、芸術科書道を通して「豊かに生きる力」の育成を目指した効果的な指導を念頭に、授業改革に取り組みしていきたいと思えます。

日言語文化の理解を深める指導方法の研究 愛媛の文人の書きぶりに学ぶ

愛媛県立今治北高等学校

教諭 川崎 洋子



この度、全高書研愛媛県大会の研究発表において、研究テーマ「言語文化の理解を深める指導方法の研究」

に沿って「愛媛の文人に学ぶ」と題した、書道Ⅰ「漢字仮名交じりの書」において鑑賞の授業実践報告をさせていただきます。

発表させていただく愛媛県立松山中央高等学校は、昭和六十二年に創設された、県内で最も新しい県立普通科高校です。普通科では珍しい英語コースや医療・看護系コースも設置しており、二年生からは、理数系、文

系、市内の至る所に俳句ポストや句碑が建てられるなど、俳句は地域文化として根付いています。

今回の授業では、正岡子規と河東碧梧桐の書を地域教材として取り上げました。二者は師弟関係にありながら、それぞれの俳句の趣向や書作品の書きぶりに大きな違いが見られます。二者の俳句の趣向や書風の違いを「言葉のリズム」(定型律

「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」三つの単元の既習の知識を生かしながら、書を構成する要素「作品構成」と「線質」に分けて書の比較・分析を行いました。「作品構成」では、連綿・筆脈、行の流れ・言葉のリズム(律の違い)に着目し、分析していきます。また、「線質」では二者の作品の一部を抜粋して、穂先の通る位置と運筆の速度(遅速の変化)に着目して用筆法を確認していただきました。

地元にも生まれた偉大な文人の俳句を「書」の視点からアプローチし分析していく活動は、新鮮な取り組みであったと多くの生徒の

今回、このような機会をいただきましたことに感謝するとともに、全国の先生方から御指導・御助言をいただいで、今後の授業改善に生かしていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いたします。

B言語文化の理解を深める指導方法の研究 書道Iにおける書の鑑賞と本校の取組より

徳島県立城東高等学校

教諭 藤永 真里



この度、「文字文化と豊かに関わる書道教育」書の見方・考え方を通した深い学び」という大会研究テーマに基づき、研究発表をさせていただきます。

本校は、徳高市の中心部にあり、来年度創立百二十周年を迎える進学校です。近所には、本校出身の小説家である瀬戸内寂聴氏の記念室及び「線の行者」と言われた徳島県出身の小坂奇石や明治三筆の一人である中林悟竹等の作品を数多く所蔵している徳島県立文学書道館、徳川将軍家に縁ある蜂須賀家の書状等を所蔵している徳島城博物館があり、

様々な作品鑑賞ができる条件に恵まれています。

私は書の鑑賞は、できる限り本物を見るのが一番だと考えており、機会を逃さないよう生徒に促しています。そこで、毎年行っている生徒の創作作品、大学教授所蔵作品、徳島県立文学書道館の書道特別展・企画展の三つの鑑賞を通じて、生徒たちが書よさや美しさを感じ取り、効果的な表現の工夫や技能を身に付けることができるよう、研究を行いました。

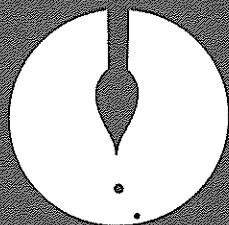
まず、生徒の創作作品鑑賞では、色紙を好みの色に染色し、自分の伝えたい思いを表す言葉を選択して、作品制作時の表現方法を工夫した作品を鑑賞しました。クラスの仲間たちが、懸命に制作し発表する様子から和やかな雰囲気が進み、次回の作品制作に向けて意欲的に取り組むみたいと思う生徒が多くなりました。

次に、四国大学名誉教授である富久鳴泉(和代)先生の鑑賞の授業では、直観の印象を大切にしながら純粹に楽しむのがよい、ということなどの鑑賞のしかたを教わった後、先生の貴重なコレクション用いて各作品の解説をしていただきました。その中で、一番好きだと思ふ作品を選択してもらうと、一位が日下部鳴鶴、二位が富久先生の仮名作品、三位が小坂奇石の作品になりました。生徒たちは、各作品から読むことができないくても迫力や温かみなどを感じており、良い刺激を受けたようでした。

けられました。また、中林悟竹の書では、読むことができないう文字でも大胆さやおもしろさ等を感じ取っている生徒が多くなりました。

今後も、さまざまな鑑賞を通じて、生涯にわたり書を愛好する生徒が増えてくれることを期待して、授業を行うていきたいと考えています。

最後に、生徒たちに夏季休業中の課題として、徳島県立文学書道館の書道特別展「真つすぐな書家 小坂奇石の書と生涯」及び書道企画展「悟竹さんのべんてこりんな書」を鑑賞してレポートを提出してもらいました。小坂奇石の書からは、かすれによる表現の美しさや生き生きとした線によって感動している様子が見受



全日本高等学校書道教育研究会



岐阜県令和二年度 活動報告

●芸術科書道教育 実態調査

(五月十七日～六二十五日)
県内公立・私立高校すべてに書道教育調査を依頼。全高書研に報告。

●第四十六回岐阜県 高等学校書道展

(十一月三日～八日 於岐
卓県美術館)
出品校 三十八校。出品
点数 百七十五点。
教員展 二十点出品。

臨書展 十五校より授業
で制作した半紙作品を十六
点ずつ出品、一壁面をすべ
て使ったの展示。

講評会 講師に 元全日

本高等学校書道研究会理事
毛藤 佳宏先生
日展準会員 尾西 正成先
生をお招きして参加生徒の
作品についてご講評をいた
だく。

●研究協議会(例年研究授
業を実施していたが、今年
度は実践報告のみ。
(十二月二日 於岐阜総
合学園高校) 古川 徹教
諭(県立大垣工業高校)の
発表。

「書道の授業実践の根幹
にあるもの」―芸術として
の書について―
「名品鑑賞会」比田井天来
の書

●各地区高校書道展 中濃地区高校書道展

(二月二十日～二十八日)
三十四点出品
WEB開催

●飛騨地区高校書道展

(十二月十二日～十三日)
百二十五点出品
於高山市民文化会館

●令和元年度授業実践報 告集(第十二集)の作成

新型コロナウイルス感染症で実施で

きなかつた事業

●県芸術部会総会・研究 協議会

●県芸術部会書道部会 総会・研究協議会

●県総合文化祭書道展に 向けての作品研究会

(例年は美濃加茂市で
各校七名までの参加者計
百三十人程度が集まる。)

●第四十五回全高書研 福島大会

●東濃地区高校書道展

◎第四十七回全校書研岐阜
大会【東海ブロック大会】
に向けて

令和二年二月八日、第一
回準備委員会を立ち上げ、
新型コロナウイルス対策もあり、
少人数での開催が続いた。

令和二年十二月二日には、
事務局より荒井会長先生、
小室理事長先生に岐いた
だき、概要を決定する。

令和三年一月二十五日に
はWEBによる会議シス
テムを利用して、専任以外
の講師も交えた準備委員会
が可能となる。

現在、運営組織・分科会

テーマ・発表者もほぼ決
定し、十月に予定している
プレ大会や、協賛金の確保
会場や実施方法について検
討中。

東海ブロック開催となり、
愛知、静岡、三重の先生方
にご指導、ご協力をいただ
き出来る限りの努力をして
まいります。新型コロナウイルス感
染症が終息し、無事に開催
でき、ご参加いただけます
よう祈念しております。

編集後記

全高書研会報九十号をお届けし
ます。全高書研会長の荒井利之先
生(川崎市立川崎総合科学高等学
校長)をはじめ、ご多忙極まりな
い中、ご執筆いただきました先生
方には深く感謝申し上げます。

今年度も、残念ながら昨年引
き続き新型コロナウイルス感染に
より教育現場では様々な対応に追
われていることかと思えます。そ
んな中でも、今年度の大会はオン
ライン開催という新しい方法での
開催が決定しました。準備を進め
ていただく中で大変なご苦労や工
夫をしていただきありがとうございます。

いよいよ大会が近づいて参りま
した。準備も最終段階となり、大
変お忙しい時期だとは思いますが、愛媛県の先生方を中心に何卒
よろしくお願いいたします。初め
てのオンライン開催ですが有意義
な大会となりますよう楽しみにし
ています。各都道府県より多くの
先生方の参加を心からお待ちして
おります。

(岸本)

- 参加費 3,500円(研究集録代2,500円含)<大会終了後発行予定>
振込先 ゆうちょ銀行 締切 9月24日(金)
- 参加申込 愛媛大会申込フォームから申込み 締切 9月24日(金)
全日本高等学校書道教育研究会ホームページ
<https://www.zenkoushoken.sun.bindcloud.jp>

<指導助言及び講演> 動画配信

「新しい教育課程とこれからの高等学校芸術科書道教育」

講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 豊口 和士 先生

<授業研究> 事前動画公開(10月9日~20日)及びライブ配信

A 研究テーマ「書に関する見方・考え方を働かせる指導方法の研究」

書道Ⅰ 「書之美を求めて~自ら学ぶ古典学習の在り方~」

愛媛県立松山東高等学校教諭 阿部 秀信

B 研究テーマ「書の魅力を地域に発信する学習活動」

書道Ⅰ 「学校設定科目「松山学」(商業)との連携を通して」

愛媛県立松山商業高等学校教諭 加納 清一

<研究発表> 事前資料公開(10月9日~20日)及びライブ配信

○研究テーマ「文字文化への理解を深める学習方法の研究」

「古筆の持つ空間・リズムの習得につなげる段階的指導の実践」

愛媛県立松山中央高等学校教諭 正岡 京子

○研究テーマ「言語文化の理解を深める指導方法の研究」

「愛媛の文人の書きぶりに学ぶ」

愛媛県立今治北高等学校教諭 川崎 洋子

<企画展> 「愛媛ゆかりの俳人・文人の書画展」WEB公開

※御案内 「米山生誕200年展」愛媛大学ミュージアム

4月26日(月)~10月23日(土)10:00~16:30(入館16:00まで)

愛媛県松山市文京町3 愛媛大学城北キャンパス内TEL089-927-8293

愛媛大学ミュージアムチャンネルで動画配信を予定しています。

<https://www.ehime-u.ac.jp/overview/facilities/museum>

「生誕200年 三輪田米山展」愛媛県美術館 新館

10月2日(土)~11月30日(火)9:40~18:00(入館17:30まで)

愛媛県松山市堀之内 TEL 089-932-0010

開催については変更の可能性があります。各展覧会場ホームページ等でご確認ください。

第46回全日本高等学校書道教育研究会愛媛大会 (問い合わせ先)

運営委員長 宇都宮 澄美

愛媛県立東温高等学校

〒791-0204 東温市志津川960

TEL 089-964-2400 FAX 089-964-7442

愛媛大会事務局 E-mail ehime-sho-2021@esnet.ed.jp

事務局長 内田 順子

愛媛県立伊予高等学校

〒791-3102 伊予郡松前町北黒田119-2

TEL089-984-9311 FAX089-985-0622



第46回全日本高等学校書道教育研究会 愛媛大会オンライン開催 (最終案内)

愛媛大会テーマ

『文字文化と豊かに関わる書道教育』 ～書の見方・考え方を通した深い学び～

経済のグローバル化、情報通信技術の発達、人工知能をはじめとする技術革新の急速な進展など社会の大きな変化が加速的に進み、将来に向けて、一人ひとりが主体的に変化に対応し課題を解決していく資質能力を身に付けるとともに、豊かな想像力をもって感性や情緒を育むことのできる教育が求められています。

文部科学省のホームページに、「学習指導要領の改訂に込められた思い」として「これからの社会が、どんなに変化して予測困難な時代になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。」とあります。この思いを形にするために、書道教育の場では何が出来るかを考えて試行錯誤を繰り返しているところです。

この度、研究の経過を問いかける機会に接し、コミュニケーションの基である「文字文化」に考えを巡らせました。書道を学習することを通して育まれる、ものの見方や理解力、そこから発展させる創造力は、形を変えながら生徒が描く幸せに結び付いていくと考えています。忌憚のない御意見や御提言をいただき、進化の糧にしたいと思います。

愛媛県は気候温暖で豊かな自然環境に恵まれた地です。古来、多くの人々に愛された温泉もあり、心と体を癒す場所としては最適の条件が揃っています。しかし、新型コロナウイルス感染症や豪雨土砂災害のような予測困難な状況は、この穏やかな地にも襲い掛かって来ています。このような時だからこそ、心の豊かさについて思いを致し、できる限りの工夫を持って教育活動に臨みたいと思います。

皆様におかれましては、激動の社会生活で固まりがちな心と体を温めて採みほぐし、生徒たちが向かう明るい未来について共に考えるために是非、御参加ください。お待ちしております。

日時 令和3年10月20日(水) 10:00～16:40 Zoom

会場 《総会・開会式・講演・閉会式》 川崎市立川崎総合科学高等学校 (予定)

神奈川県川崎市幸区小向仲野町 5-1 TEL 044-511-7336

《授業研究》

A 愛媛県立松山東高等学校 書道教室

B 愛媛県立松山商業高等学校 書道教室

《研究発表・研究協議》

愛媛県立松山商業高等学校 視聴覚室

愛媛県松山市旭町 71 番地 TEL 089-941-3751

《企画展》

「愛媛ゆかりの俳人・文人の書画展」WEB公開

大会日程

10:00～ 11:30	10:30～ 11:00	11:10～ 11:30	11:40～ 12:30	12:30～ 13:30	13:40～ 14:30	14:40～ 15:20	15:20～ 16:20	16:30～ 16:40
受付	総会	開会式	講演	昼食	授業研究	研究発表	研究協議	閉会式



第47回全日本高等学校書道教育研究会

岐阜大会【東海ブロック開催】ご案内(第2次案内)

岐阜大会テーマ

『書の伝統と未来を考える』

～新しい発見・豊かな発想がうまれる書教育～

会期 令和4年11月17日(木)・18日(金)

会場 <主会場・研究授業> 岐阜県立岐阜総合学園高等学校 岐阜県岐阜市須賀2-7-25 TEL 058-271-5548

日程

◇第1日目 11月17日(木)

9:30～	10:00～11:00	11:10～12:00	12:00～13:30	13:40～14:30	15:30～16:40
受付	打ち合わせ総会	開会式	昼食	研究授業	研究協議

◇第2日目 11月18日(金)

8:30～	9:00～11:00	11:10～12:00	12:00～13:00	13:10～14:10	14:10～
受付	分科会(研究発表)研究協議	全体会閉会式	昼食	情報交換会	企画展等鑑賞

【授業研究】

A【漢字の書】岐阜県立岐阜城北高等学校 駒瀬 公哉

「書道I」漢字の書～書と生活デザインの親和性を高める主体的活動の実践(仮)

【仮名の書】岐阜県立岐阜農林高等学校 松原 直也

「書道I」仮名の書において思考力・判断力・表現力等の育成を図る授業実践(仮)

2 分科会テーマおよび発表者

(1)分科会テーマ

A【ICT機器の活用から考える書教育の不易流行】(仮)

・岐阜 紀平 友起子(瑞浪高)～MetaMojiクラスルームを利用して(仮)

B【生徒の主体的対話的な活動を支える基礎基本の考察】(仮)

・静岡 内山 隆宏(浜名高)・朝井出 桃子(浜松東高)

～新学習指導要領改訂に伴う「静岡県版カリキュラム」ミニマムスタンダードの説明と授業実践について(仮)

・三重 岸本一哉(尾鷲高)～篆刻において姓名印を作成する際、生徒の主体的対話的な活動を通し、

運刀時に無理のない印稿づくりを考える。(仮)

C【意図に基づいた表現を目指して】～思いを深めるための工夫～(仮)

・愛知 三浦拓真(一色高)～谷川俊太郎「そとうた」漢字仮名交じりの書(仮)

・岐阜 中島千寿(岐阜総合学園高)～美術や国語科との横断的指導による作品制作(仮)

3 紙上発表

東海ブロックより・三重 2本予定(未定)

・愛知 吉田 翠(愛知商業高) 博学連携の実践(仮)

・静岡 羽切 初枝(浜松市立高)・風岡 将平先生(沼津西高)

新学習指導要領改訂に伴う「静岡県版カリキュラム」ミニマムスタンダードの作成にあたって(仮)

・岐阜 竹原 寛太(飛騨高山高) 飛騨高山にゆかりのある人の書

大会講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官
豊口 和土先生(予定)

企画展 検討中

大会参加費 6,500円(予定)

教育懇談会 令和4年11月17日(木)18:30～20:00

ホテルグランヴェール岐阜

岐阜県岐阜市柳ヶ瀬通り6-14 TEL058-263-7111

会費 7,500円(予定)

(お問い合わせ先)

第47回全日本高等学校書道教育研究会

岐阜大会東海ブロック開催

岐阜県立岐阜総合学園高等学校内 教諭 中島 千寿

〒500-8789 岐阜県岐阜市須賀2-7-25

TEL 058-271-5548 FAX 058-274-2350

E-mail p26043@gifu-net.ed.jp